

授業科目	看護倫理	2 学年・後期・1 単位 (15 時間)	
		看護	必修

科目担当責任者	未定 (未定) e-mail : 未定	非常勤講師 連絡担当教員	中村円 (保健医療学研究棟 E312) e-mail : m-nakamura@sapmed.ac.jp
担当教員			
概要	看護は、看護者と対象者の人間関係を契機とする実践活動である。しかし人間社会で行われる活動であるがゆえに、看護実践の内部には看護者・対象者の人間らしさを脅かす様々な要因が存在し、看護本来の目的実現を妨げている。よりよい看護を実現するためには現実を多面的に見つめ、何がなぜ看護のあり方に影響を及ぼしているのかを明らかにし、看護本来の目的実現に向けた改善への方途を探らなければならない。本科目では、より人間らしい看護を実現するための看護者としての思考と態度を学び、看護職者に求められる社会的な役割・責任を考察することで、看護倫理に関する理解を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護実践と倫理に関する基本的な概念を説明できる。</li> <li>2. 「看護とは何か」「看護職者とは何をするものか」について、看護実践と倫理の観点から説明できる。</li> <li>3. 紙上事例を用いて、よい看護を実現するための思考過程をたどることができる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 紙上事例に内在する倫理的な問題を明らかにする。</li> <li>2) 1) で明確化した倫理的な問題を実践の規定要因との関連からさぐる。</li> <li>3) 上記を踏まえて、倫理的な問題を解決するための看護援助について考える。</li> </ol> </li> <li>4. 看護職者の役割・責任について、看護倫理の視点から自分なりの意見を表明する。</li> <li>5. よい看護を実現するための短期的・長期的な方略を提案する。</li> </ol>		
関連科目	倫理学、看護学概論、基礎看護方法3、基礎看護方法4		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	提出物	80%	提出物：授業で示される学習課題の提出・記載内容(50%)、レポート記載内容(30%)より目標到達状況の評価する。グループ学習：討議への参加状況、グループ発表資料により評価する。
	グループ学習	20%	
教科書	指定なし		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>①服部健司他 [2018] 「医療倫理学のABC(第4版)」メヂカルフレンド社</li> <li>②D・F・チャンプリス(浅野祐子訳) [2002] 「ケアの向こう側：看護職が直面する道徳的・倫理的矛盾」日本看護協会出版会</li> <li>③日本看護協会編 [2007] 「看護者の基本的責務：基本法と倫理」日本看護協会出版会</li> <li>④厚生労働省身体拘束ゼロ作成推進会議 [2001] 「身体拘束ゼロへの手引き」厚生労働省</li> <li>⑤S・T・フライ他(片田範子他訳) [2010] 「看護実践の倫理(第3版)倫理的意思決定のためのガイド」日本看護協会出版会</li> <li>⑥小西恵美子編 [2014] 「看護倫理：よい看護・よい看護師への道しるべ(第2版)」南江堂</li> </ol>		
履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習の進捗状況等によって内容を変更する場合がある。</li> <li>2. 倫理的な学習姿勢で授業に参加する。</li> </ol>		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	倫理とは何か：社会と倫理、倫理と道徳、倫理的思考、倫理と価値	事後：学習課題	講義、グループ学習	未定
2	看護倫理とは何か：看護実践の本質、看護実践における価値、看護者の倫理的責任	事後：学習課題	〃	〃
3	看護実践と倫理：「よいナース」とは、F. ナイチンゲールと看護倫理、専門職と倫理綱領、看護倫理の重要概念	事後：学習課題	〃	〃

4	身体拘束に関する事例を用いた討議-1	事後：学習課題	〃	〃
5	身体拘束の実際：対象者を拘束する看護師、看護師に拘束される対象者を体験	事後：演習記録	演習	〃
6	身体拘束に関する事例を用いた討議	事後：学習課題	〃	〃
7	身体拘束に関する事例を用いた討議(発表準備)	事後：学習課題	〃	〃
8	発表会、まとめ、レポートに関する説明	事後：課題レポート	〃	〃